第9回京大知球会関東支部講演会

南極水床変動 と海水準変動

福田洋 国立極地研究所·外来研究員 (1977年1講座卒)

内容

・この演題を選んだ理由

・地球史の中での氷床変動

・現在の南極氷床変動



1955年2月 兵庫県加古川市生まれ

1977年3月 京都大学理学部卒業 (第1講座)

1979年3月 京都大学大学院修士課程修了(地球物理学専攻)

1980年4月 弘前大学理学部・助手

1987年6月 東京大学海洋研究所・助手

1992年7月 京都大学理学部附属地球物理学研究施設・助教授

1996年9月 京都大学大学院理学研究科·助教授

2007年2月 京都大学大学院理学研究科·教授

2020年3月 京都大学定年退職

2020年4月 国立極地研究所·特任教授

2022年4月 国立極地研究所·外来研究員

南極観測:

第27(1985)、28(1986)、33(1991)次、45(2003)次、55(2013)次 南極観測隊 (JARE)

2019年 韓国、イタリア南極基地





新学術領域研究 (2017~2021)

熱~水~物質の巨大リザーバ 全球環境変動を駆動する南大洋・南極氷床

領域代表:川村賢二 (総括班、国際活動支援班)

計画研究:

A01-1: 南極底層水を起点とする熱塩循環・物質循環のダイナミクス(大島慶一郎)

A01-2: 南大洋の古海洋変動ダイナミクス(池原実)

A01-3: 海氷下の生態系と物質循環の

相互作用(茂木正人)

A02-1: 南極氷床と気候の変動

及び相互作用(川村賢二)

A02-2:固体地球と氷床の

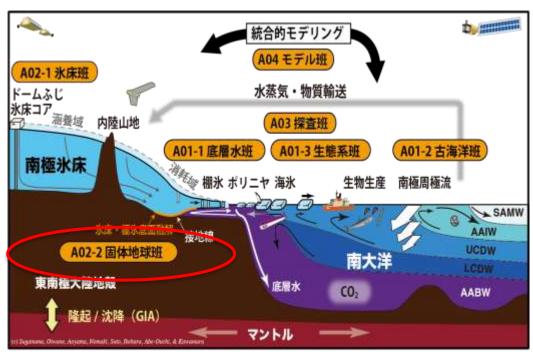
相互作用(福田洋一)

A03:未探査領域への挑戦

(野木義史)

A04: 南極氷床・海洋・気候の

統合的モデリング(阿部彩子)





新学術領域研究「南極の海と氷床」

youtube



GRAntarctic



氷床変動と固体地球の関係

奥勢淳一 (情報・システム研究機構)



レクチャーシリーズ (時間報)

南極の気候と大気循環

百亩正和 (東京大学)

氷床に刻まれた地球の歴史 ~アイスコアの研究~

大級條例 (国立接地研究剂)



氷床変動と固体地球の関係

73回視聴・1か月前

南極の気候と大気循環

55 回視聴・2 か月前

氷床に刻まれた地球の歴史 ~アイスコアの研究~

71 回視聴・2 か月前





南極の海と氷床

南極海から沈み込む海洋大循環

大品書一郎 (北海道大学 信息科学研究用)



宇宙がつなぐ南大洋生態系と海氷

高尾信太郎 (国立環境研究所)



南極海の食物 ハダカイワ





南極の海と氷床

レクチャーシリーズ【応用編】

9:46



衛星が捉えた南極氷床融解の加速

福田洋一(国立極地研究所)



南極の雪とえ 環境の歴史

136 回視聴・1

文部科学者 科学研究費助成事業 新学術領域研究 「第一水-物質の巨大リザーバ 全球環境変数を翻動する用大洋・高陸氷床」

南大洋



GRAntarctic

目次

MEMIC

商権高級をと全球条件十三国権権		1
御集的役がリーヤでの海水生成と規管を形成	5.6 8-6	13
※大洋における期間からみた海洋長期支給	v* a	25
種別と毎詳の相互作材とそのモデリンド	WIE 10.00	10
海洋見言複様モデルの考え力と高度	и и	0.
株大学における人為英雄二種作成業の取り返み		57
海淋海生態系術党の現状と展集一項主能線と数次生産者の程式から 次本 正人 真	唯一电台、直接 型大器	TI
対極地環境変遷のさらなる開発に向けて ― 幼落および資金色原化石研究の模式と混動 ― 		.05
会球気候変動を駆動する資大は無は困難 → アガラスペーヤージとウェッデルジャイヤ →	- AH K	121
組計開生期の有帳後年期間と概念率に同	- 11 11	135
資保のアイスコアから従来する裏点の気候変数		148
アイスコアによる毎年制程を助り仮文:		153
病体生産 ― その変数と論言との相互作場 ―		169
8年モデリングの高度 - 番箱	多樹、グレーベーラルツ	179
我是账款;;;;5向帐条不宜受权工		187
海拔水压安防上水河的地路均衡	- RW 15-	205
総合水剤経過用口添り肉体水水搬水支・衛利地質でから見た場所と薄筋	ня н=	227
果大田の町成	銀井 高額、金額 左一	243
力学型無人接条機(AUV)による水経会組成業金	0 RX 710 G	259

低温科学 vol. 76

沿出屋をで海北を見る | 施出地町に記録された地域環境影響



Low Temperature Science

2018 Vol. 76

ISSN 1880-7593

巨大リザーバ: 南大洋・南極氷床

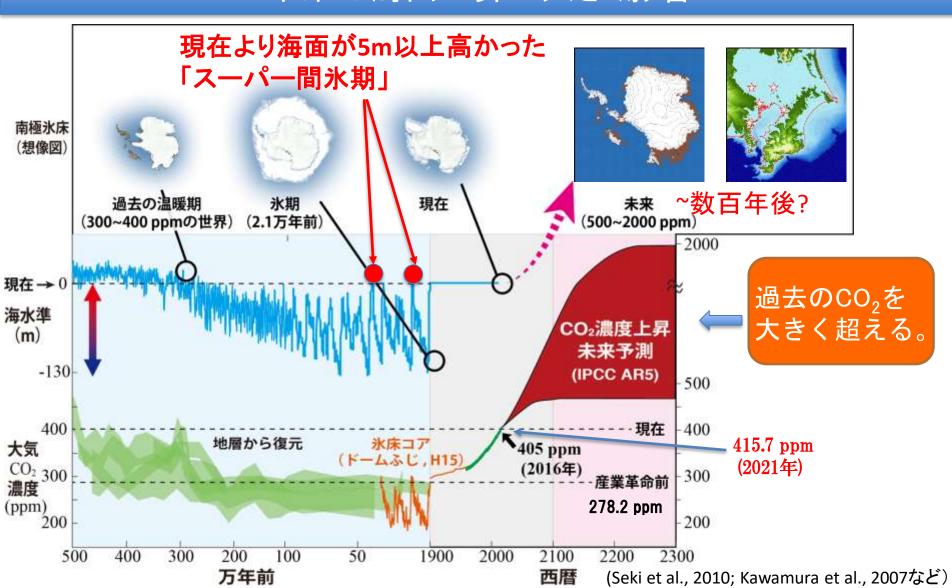


Edited by Institute of Low Temperature Science,

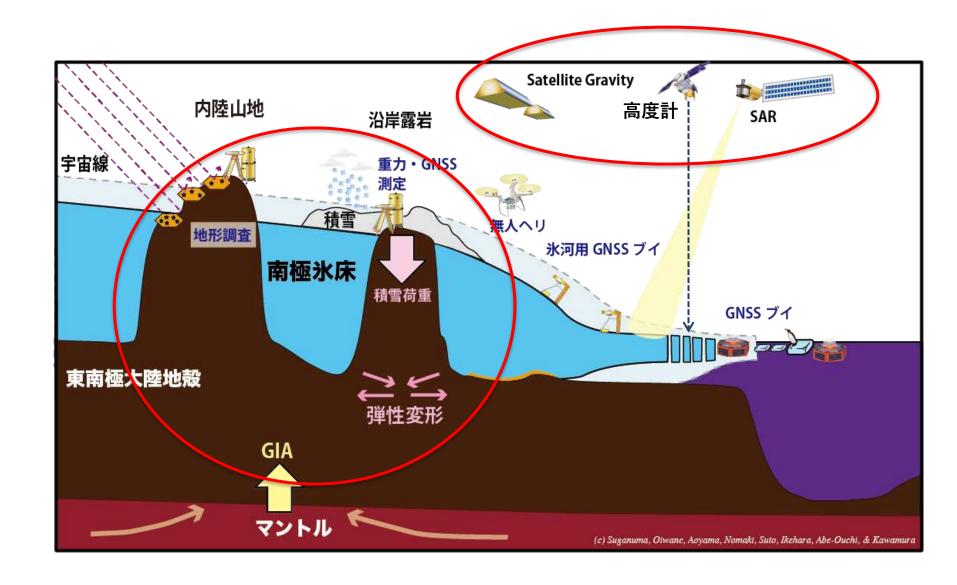


南極氷床の過去と将来予測

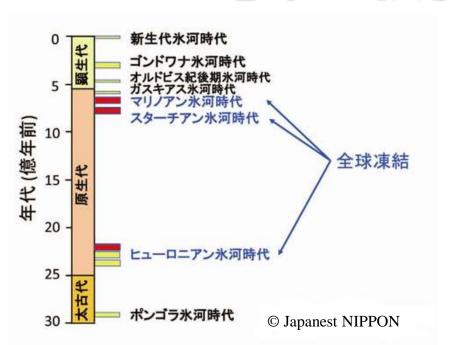
未来の海面上昇に大きく影響



現場観測と衛星観測



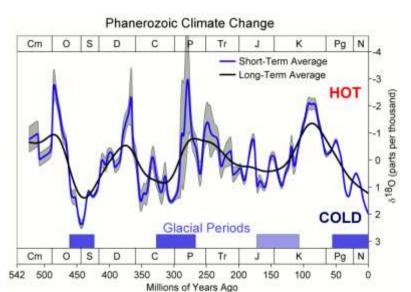
地球の環境変動史



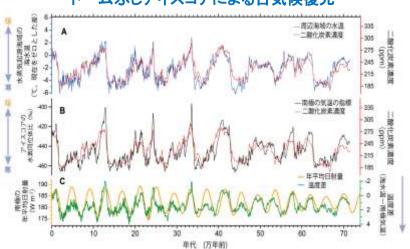


全球凍結

Snowball Earth Hypothesis: http://zebu.uoregon.edu/2002/ph123/lec13.html

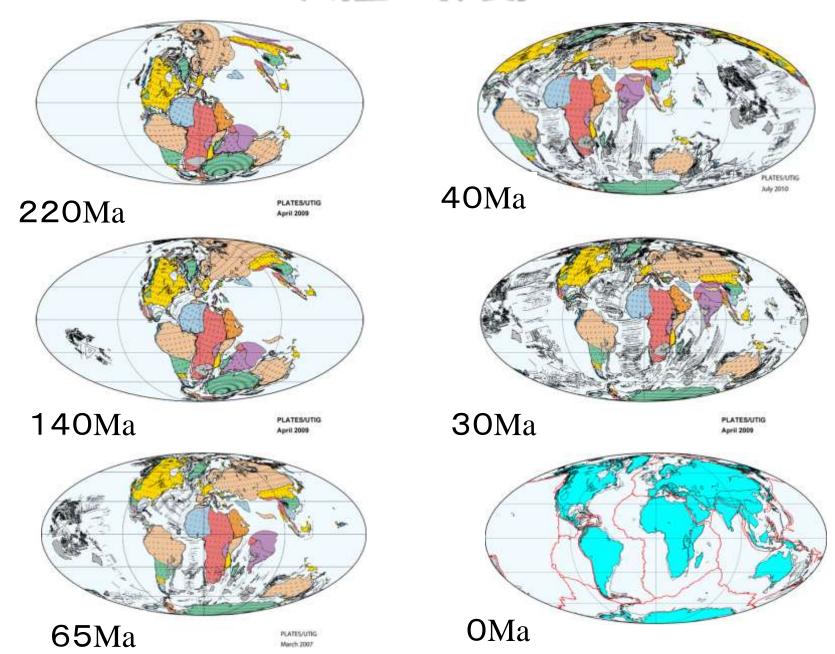


ドームふじアイスコアによる古気候復元

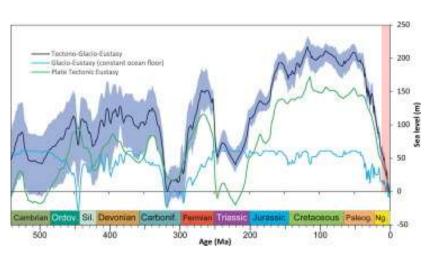


Uemura et al., 2018, Nature Communications より

大陸の移動



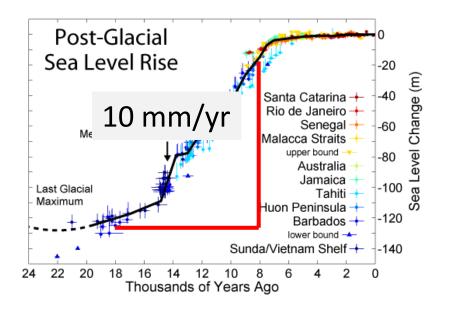
地質年代での海水準変動

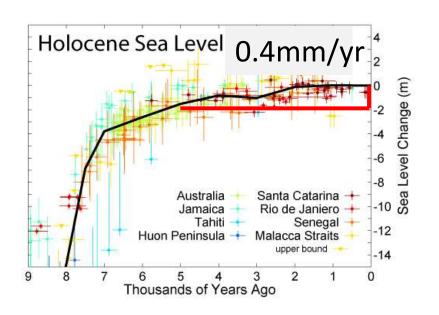


Sea Level (albedo proxy)

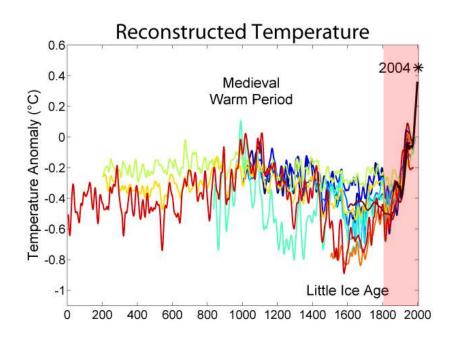
| Solution | Solut

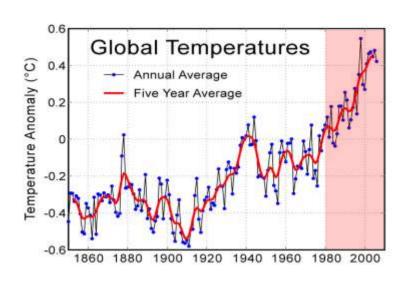
Van der Meer et al., 2022

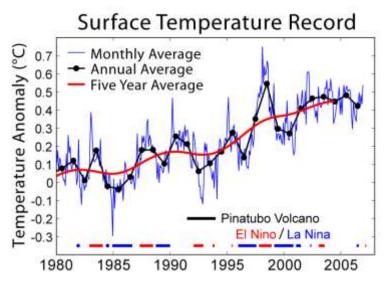




近代~現代の気温・海水温変動

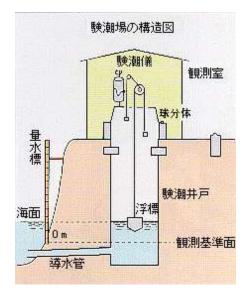


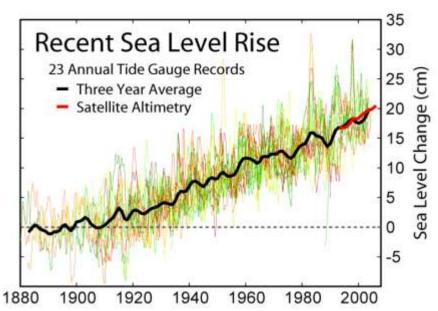




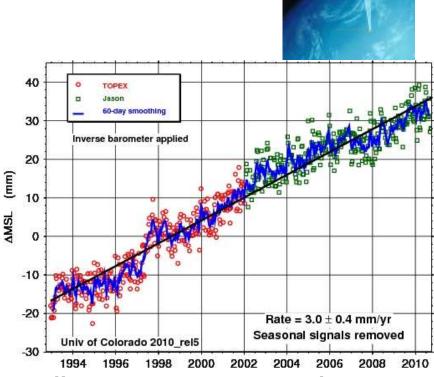
近年の海面上昇

験潮儀





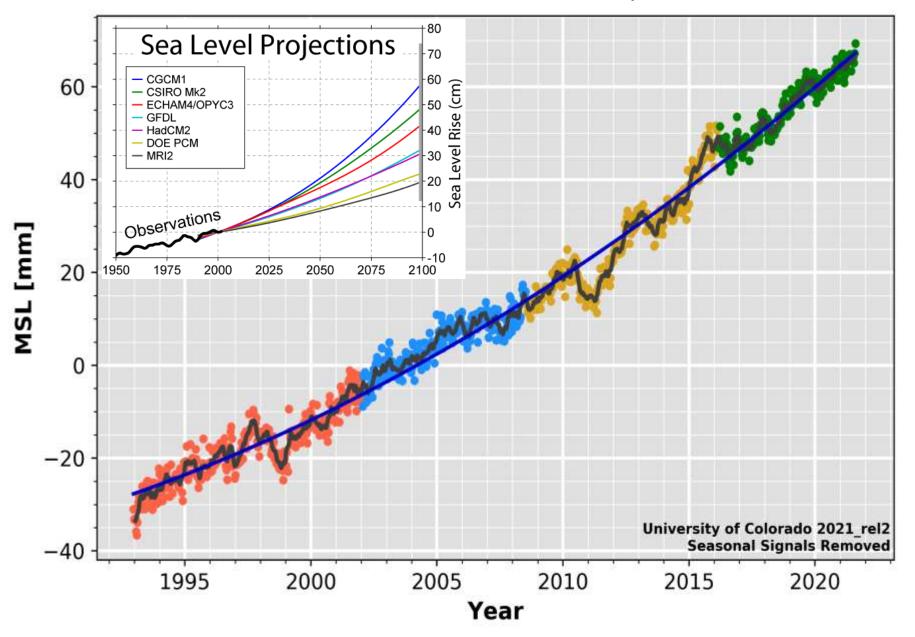
衛星高度計



http://sealevel.colorado.edu/results.php

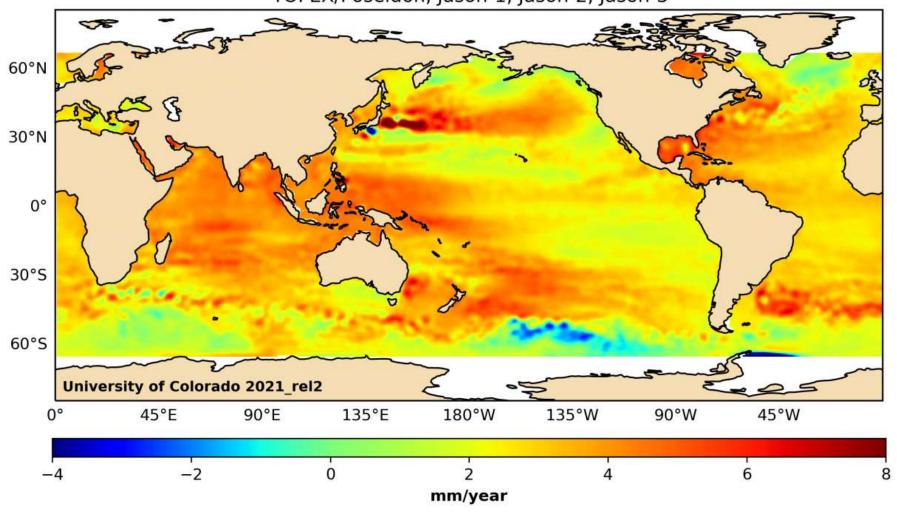
Most Recent GMSL Release 2021_rel2

http://sealevel.colorado.edu/



Sea Level Trends

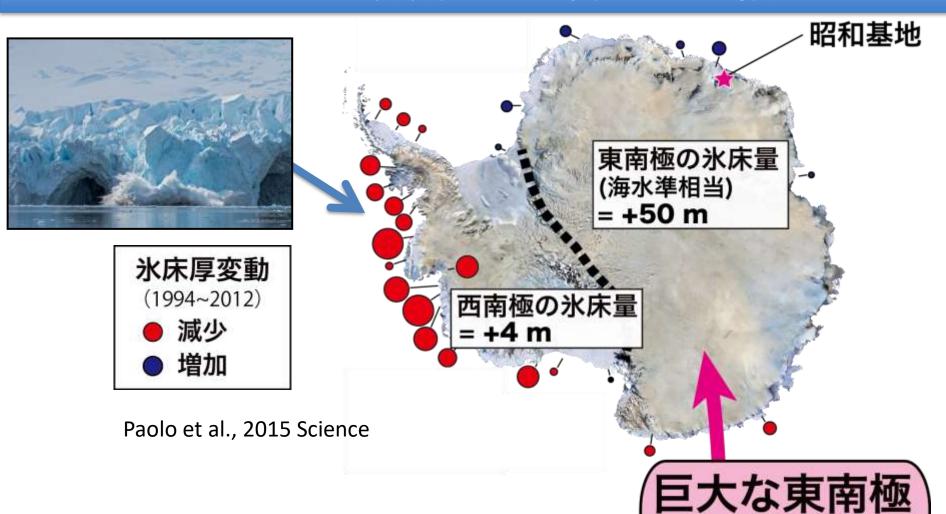
1992.96 - 2021.64 TOPEX/Poseidon, Jason-1, Jason-2, Jason-3





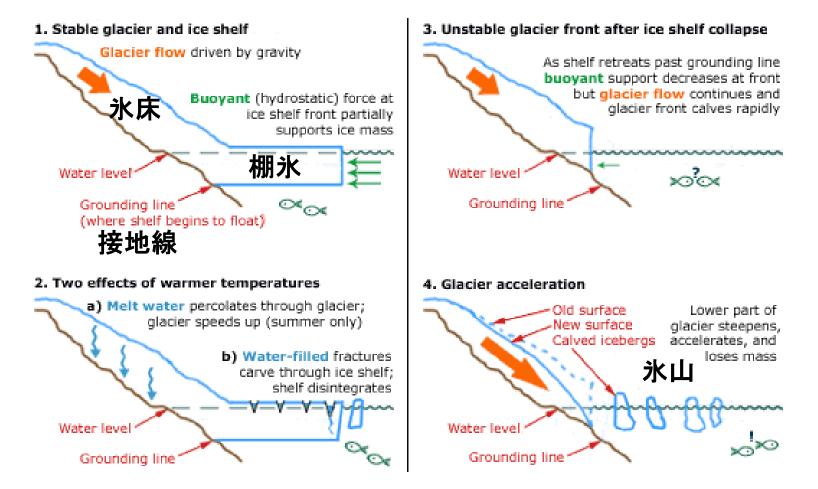
南極氷床の融解が加速

2000年代以降, 顕著に! 東南極は未解明.

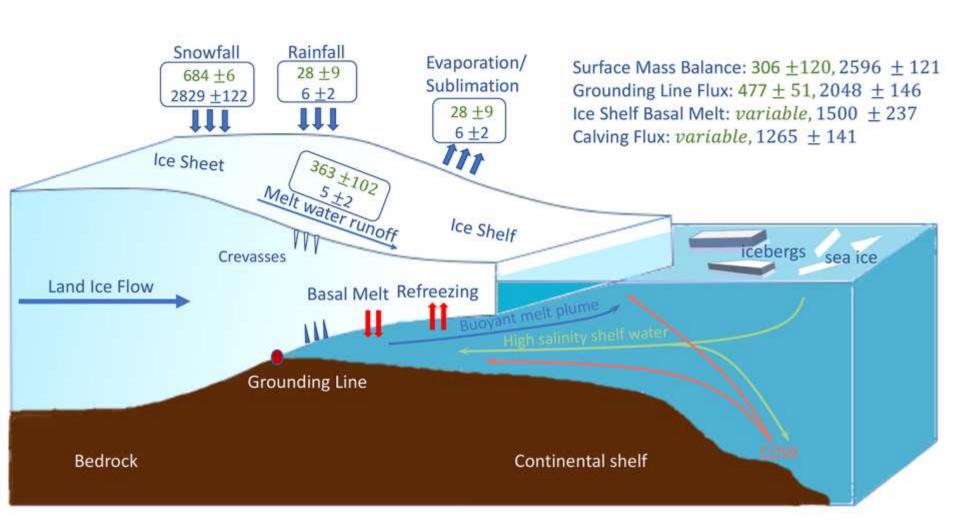


も融解加速?

氷床融解のメカニズム

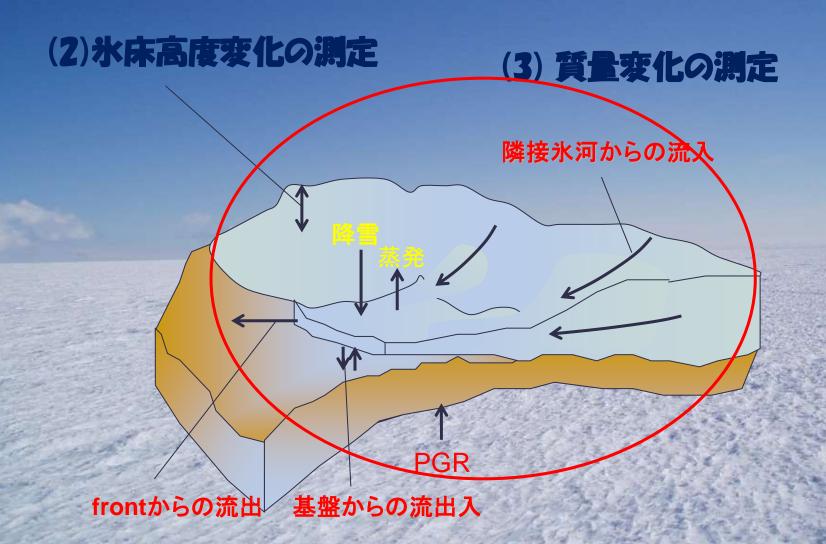


"Antarctic Glacier Accelerate in Wake of Ice Shelf Breakup" https://nsidc.org/news/newsroom/20040921_acceleration.htmlより



(Nowicki et al., 2018)

水麻寒動のモニタルング



(1)質量収支法(I/O method)

水麻寒動のモニタルング

(1)質量収支法(I/O method)

- ·降雪(水)-昇華·蒸発-流出
- ・SMBモデル(領域大気氷床数値モデル)
- ·流動速度(GNSS, InSAR)

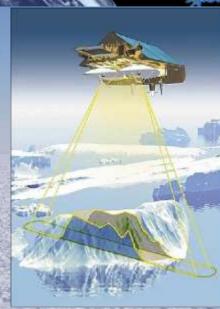
(2) 氷床高度変化の測定

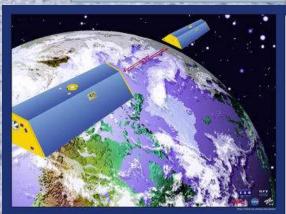
- ·衛星高度計(ERS1 & 2, Envisat, ICESat, ···)
- · 氷(雪)密度

(3) 質量変化の測定

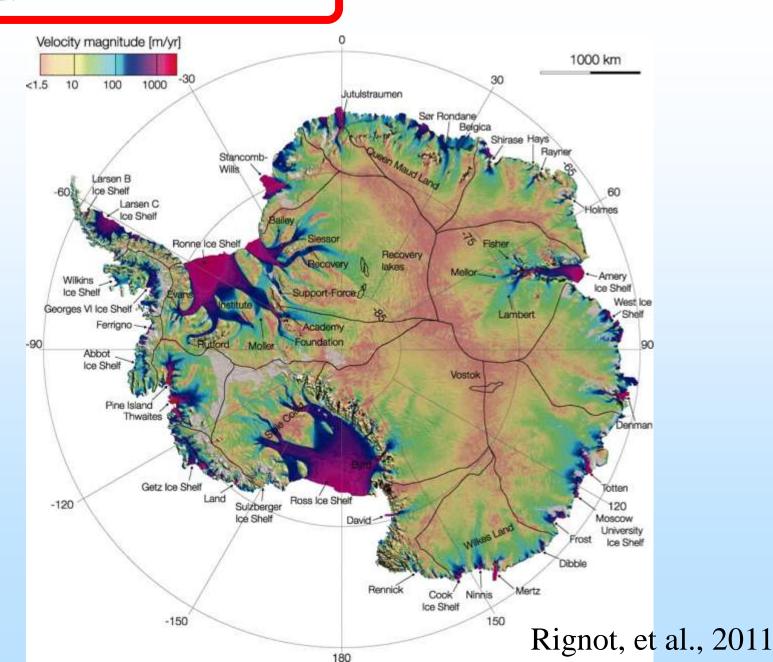
- ·衛星重力測定 GRACE (2002 2017) GRACE-FO(2018 -)
- ・GIAモデル







(1)質量収支法(I/O method)

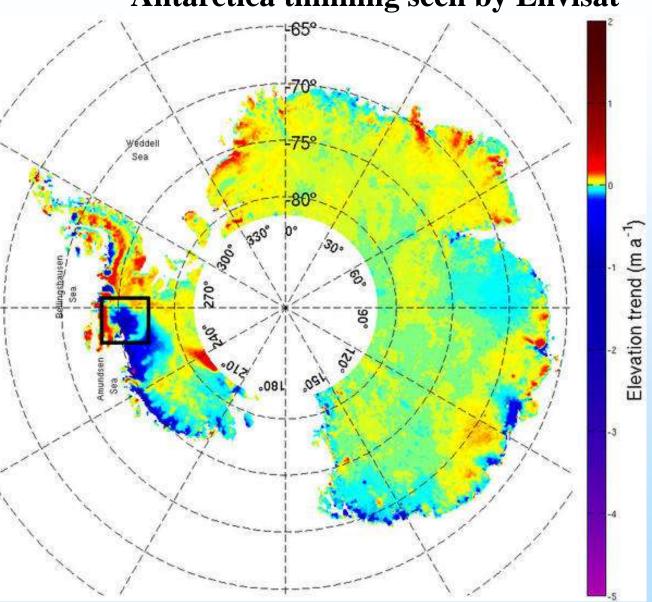


(2) 水床高度変化の測定

Antarctica thinning seen by Envisat



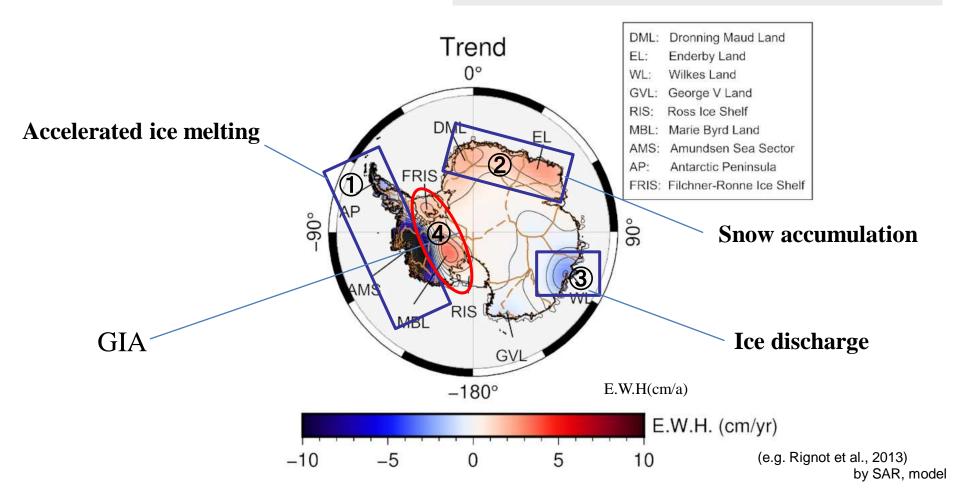
Envisat (2002/3-2012/4)



https://www.aviso.altimetry.fr/en/news/idm/2012/jun-2012-antarctica-thinning-seen-by-envisat.html

(3) 質量変化の測定

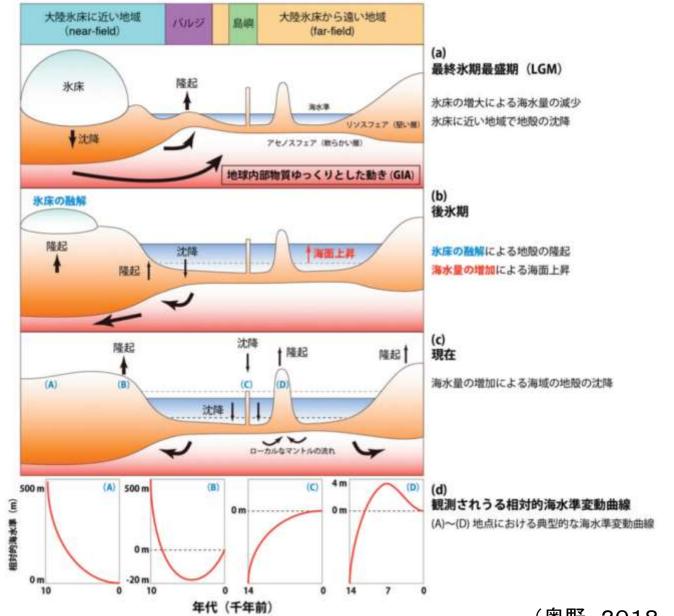
GRACE/GRACE-FO OBSERVATION



Regression trend of AIS mass change via a linear model of the April 2002–June 2020 GRACE/GRACE-FO data.

Shi, et al., 2022

GIAのメカニズム



(奥野、2018、図4)

水麻変動のモニタルング

(1)質量収支法

- ·降雪(水)-昇華·蒸発- 流出
- ・SMBモデル(領域大気氷床数値モデル)
- ·流動速度(GNSS, InSAR)

(2) 氷床高度変化の測定

- ·衛星高度計(ERS1 & 2, Envisat, ICESat, ···)
- ·氷(雪)密度

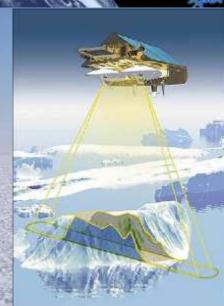
(3) 質量変化の測定

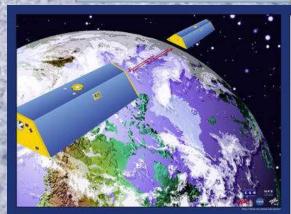
- ·衛星重力測定 GRACE (2002 2017)
- ・GIAモデル

これらの結果に矛盾はないのか?

The ice sheet mass balance inter-comparison exercise (IMBIE)









A Reconciled Estimate of Ice-Sheet Mass Balance

Shepherd et al., Science, 2012

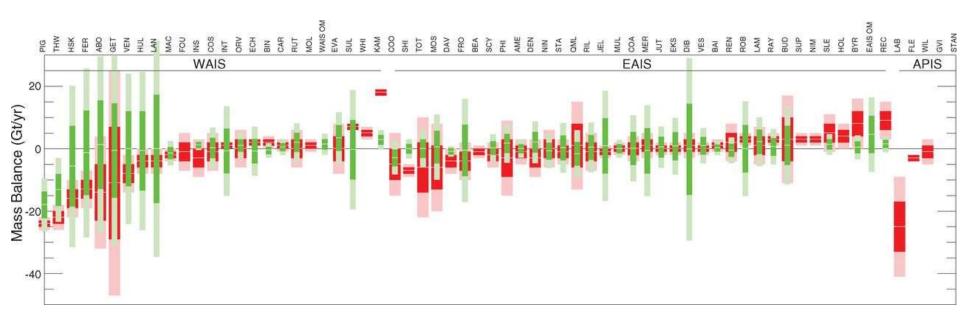
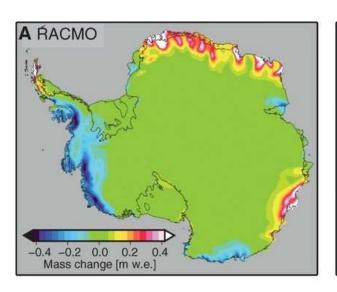


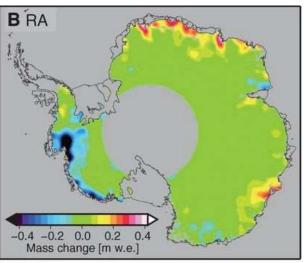
Fig. 1 Comparison of ice sheet mass balance estimates derived from satellite RA (green) and the IOM (red) over the period 1992 to 2011, with 1-sigma and 2-sigma error bars in dark and light shading, respectively, and mean values are shown in white.



A Reconciled Estimate of Ice-Sheet Mass Balance

Shepherd et al., Science, 2012





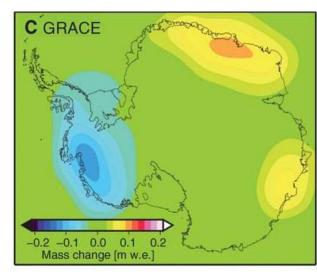
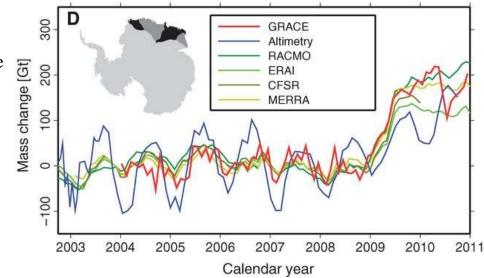
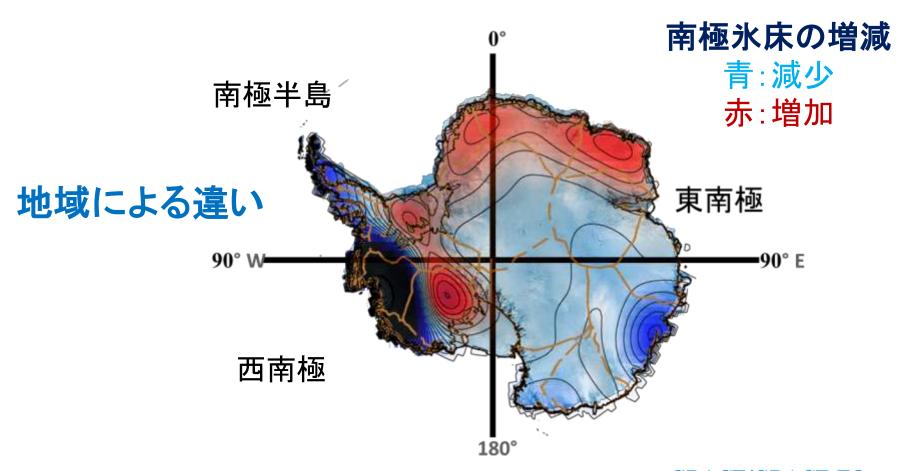


Fig. 2 Estimated anomalies in cumulative ice-sheet firn mass (**A**), and mass (**B** and **C**), derived from the RACMO regional climate model, satellite RA, and GRACE satellite gravimetry, respectively, over a period of anomalously high snowfall in East Antarctica. Anomalies were computed over the period July 2009 to July 2010 relative to July 2008 to July 2009.



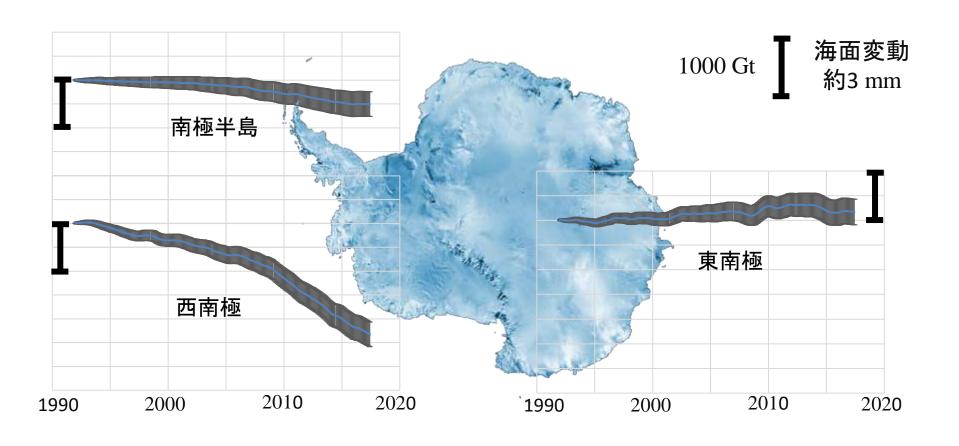


南極の氷床は本当に減っている?



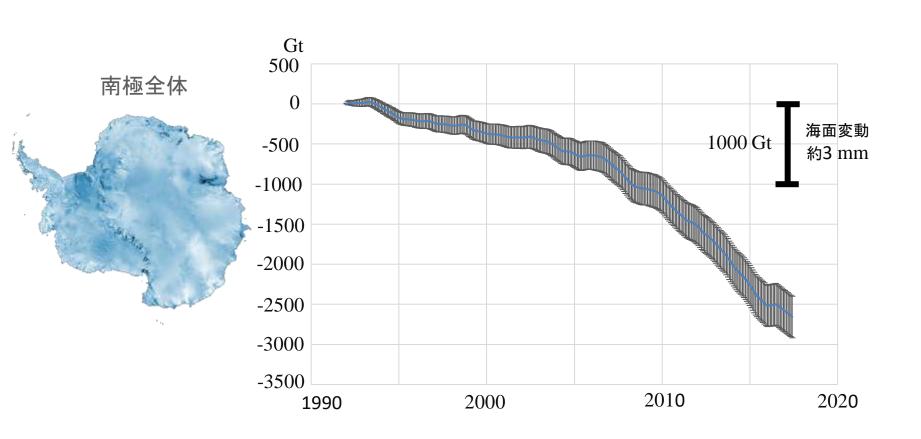
GRACE/GRACE-FO データを基に作図

南極の氷床は本当に減っている?



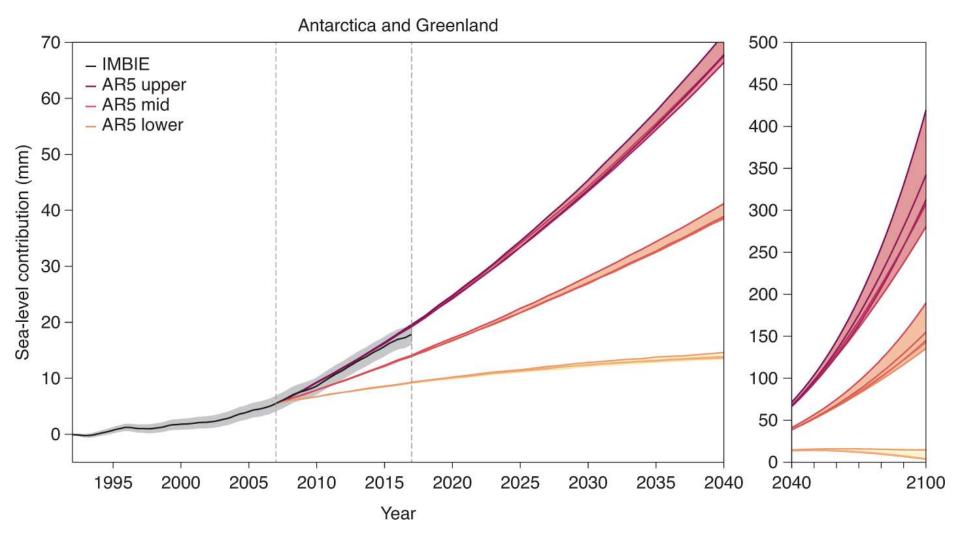
imbie datasetを基に作図

南極の氷床融解は加速している!



imbie datasetを基に作図

将来の海水準予測



Observed and predicted sea-level contribution from Antarctic and Greenland ice-sheet mass change.

(Slater et al., 2020)

